

ギンムジハマキ

春にカラマツや草の葉を糸でつづって食べるイモムシ（幼虫）。最大長約18mm。体は茶色、背中に黒い斑点がある。頭は茶色から暗い茶色で後方に黒い斑紋がある。頭のすぐ後は暗い茶色から黒。胸脚（きょうきゃく、トゲ状のあし）は黒色。カラマツでまれながら多発記録がある。

【学名】 *Eana argentana*

【分類】 チョウ目（Lepidoptera），ハマキガ科（Tortricidae）

【分布】 北海道，本州，四国，九州；ユーラシア大陸。

【特徴】

体が茶色の点でカラマツヒメハマキの幼虫に似る。カラマツヒメハマキでは頭部が全体黒色，最大長約12mm，体は太い。

【生態】

宿主：ヨーロッパトウヒ，カラマツ，ヤナギ属，草本（イネ科，双子葉植物）。

年1世代。幼虫は春に新葉を糸でつづりあわせて食べる。成虫は7月に出現する。

【被害と防除】

カラマツ林でまれに多発するが，長期化した記録はない。木が枯れた例はなく，防除は普通必要とされない。

【文献】

1984. 鈴木重孝，駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告，22：85-129.（分類，形態，生態）

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ギンムジハマキ hamaki/ginmuji/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，2001/12/22.